



# SIMOT Research Center NEWSLETTER

No.24 2007.9



東京工業大学 インスティテューショナル技術経営学研究センターニューズレター

## 目次

	ページ
● トピック	内閣府および SIMOT によるワークショップ共催 1
● イベント報告	SIMOT リサーチセンター運営委員会 2
	統合研究院 ワorkshop「製造業のサービス産業化を考える」 2
	インスティテューショナル・イノベーションの同質性・異質性 2
	SIMOT 若手研究者およびリサーチ・アシスタント研究報告会 3
● 海外活動報告	国際交流の活性化 IIASA-TokyoTech Workshop 3
● コラム	社会イノベーションへの国家的取組み 3
● イベント予定	東工大 MOT 特別セミナー2007 他 4
● 連絡先	4

## トピック

### 内閣府および SIMOT によるワークショップ共催 (2007年8月29日 東工大 西9号館)

8月29日、本学において内閣府経済社会総合研究所(ESRI)「イノベーション国際共同研究」ワークショップおよびSIMOTの共催で、“Various Governance Systems and Researchers toward Knowledge Society”と題するワークショップが開かれました。

「将来社会に関する研究」研究会座長のSIMOT運営委員の妹尾大准教授が国家戦略や社会ビジョンに関するテキストデータ(施政方針演説、科学技術基本計画など)をデータマイニングすることにより頻出語間の関係性を視覚化し、その背後の文脈を発掘するという研究の一端を紹介され、菊池隆 SIMOT 特任教授が SIMOT の概要を述べました。また、ゲスト研究者としてマドリッド自治大学戦略経営部門教授のマリア・パス・サルマドール女史がご自身のグローバルな研究・教育活動の一端を紹介されるとともに、内閣府による研究および SIMOT について貴重な意見を開陳されました。



## ■ イベント報告 ■

### SIMOT リサーチセンター運営委員会 (2007年9月25日 東工大 西9号館 201号室)

SIMOT リサーチセンター運営委員会では、事業推進担当者、COE 専任特任教授の他、東工大内関連部局（理工学研究科、総合理工学研究科、情報理工学研究科、社会理工学研究科、イノベーションマネジメント研究科、精密工学研究所、原子炉工学研究所）の代表の参画をおおぎ、センターの運営に関する基本的な方策等重要事項について、全学的な審議会を定期的に催しております。

第5回となる今回は、ポスト COE を踏まえた、平成 19 年度以降の SIMOT 事業展開について関連部局の代表からの示唆を仰ぎつつ忌憚のない討論を行いました。

拠点としてまとまった具体的な全体像の明確化が求められていることを改めて指摘されるとともに、グローバルな視野に立った拠点形成・人材育成のディシプリンの体系化が重要であることが認識されました。



### 統合研究院 ワークショップ「製造業のサービス産業化を考える」(2007年9月6日 東工大 西8号館)

本学統合研究院ソリューション研究機構内のソーシャル・ブレイン・フォーラム（SBF 統括リーダー鴨志田晃特任教授）は、9月6日、「サービスイノベーションと知識社会～製造業のサービス産業化を考える」とのテーマでワークショップを開催しました。SBF はソリューション研究機構の戦略領域の一つである知識社会領域の産官学交流フォーラムです。今回で第三回目となる同ワークショップでは、菊池隆 SIMOT 特任教授が、「製造業の知識化・サービス化」について講演し、極論するとサービス主導型経済の中の特殊形態としての製造業だと考えるべきで、日本企業はその固有の技術を研磨しつつも、高度知識化・ソフト化にむけて日本独自の的方法論で舵をとり高度サービス化を達成していかないと、世界的競争で劣位に立つと論じました。寺野隆雄 東工大知能システム科学専攻教授が、「エージェント技術による双方向リコメンデーションシステムの開発と小売サービスの革新」について講演し、またゼロックスから独立したパロアルト研究センター（PARC）のジョン・ナイツ博士はビデオ講演で、シリコンバレーのイノベーションの例を示し、また同センターの山内裕、池谷のぞみ研究員から Ethnography（民俗学）のサービス活動への応用についての紹介がありました。また、同フォーラムのリーダーである鴨志田晃特任教授から、米国サービスイノベーション調査に関する説明がありました。どの内容も Institutional Innovation に深く関わっており、SIMOT の今後の取組み課題となる可能性を秘めたものでした。尚、同ワークショップの内容は 2008 年 9 月 14 日付の科学新聞に掲載されました。



### インスティテューショナル・イノベーションの同質性・異質性 (2007年8月20日, 9月20日 東工大 百年記念館)



研究・技術計画学会 国際問題分科会 では、8月および9月例会において、「インスティテューショナル・イノベーションの同質性・異質性」をテーマに、韓国およびイランを対象にしたシリーズの議論を行いました。

[韓国] 科学技術クラスターを軸とした同質性・異質性

(漢陽大学校教授 柳太朱氏, 韓国科学技術院 森山幸司氏) Internet参加

[イラン] ナショナル・システム・オブ・イノベーションを軸とした同質性・異質性

(東工大 ナルゲス・ハギー氏)

SIMOT では、今世紀初頭からの日本の再活性化の原動力として、工業化社会において培われた固有の強みと情報化社会のデジタルエコノミーの学習の成果の融合をベースとするハイブリッド技術経営に注目しています。このような観点から、グローバル化の下、世界各国の固有の強みとその比較劣位の補完をねらいに、グローバルな視野に立脚したイノベーションと「インスティテューション」との共進化を図ることがきわめて重要な課題であり、異なる国の間の「インスティテューション」の同質性と異質性の比較検証に取り組んでいます。今回のふた月にわたる両国のシリーズ分析は、このような研究にひとつの燭光を与えることとなりました。同様の問題意識に立脚して、Technology in Society 誌では、2008年初に、中国・インド・米国の科学技術の同質性・異質性分析の特集号を出すことになり、SIMOT から貢献することとしています。



## SIMOT 若手研究者およびリサーチ・アシスタント研究報告会 (2007年9月25日 東工大)

SIMOTでは、世界に通用するインスティテューショナル技術経営リーダーの輩出をねらいに、博士後期課程学生を「リサーチ・アシスタント (RA)」および「若手研究者」として選抜して、競争条件下での研究支援を行っております。今次報告会では、平成19年度の研究展開の中間報告を目的とした研究報告を中心に、RA・若手研究者およびCOE特別研究員10名が発表を行いました。内外学識者からの批評を得て、活発な議論がなされるとともに、SIMOTのコンセプトに即した研究の深化がはかられました。



## 海外活動報告

### 国際交流の活性化 IIASA-TokyoTech Workshop (2007年9月8日,9日 ウィーン)



SIMOTの世界的認知度の更なる向上を目的に、国際交流の活性化の一環として毎年行われている国際応用システム分析研究所 (IIASA: International Institute for Applied Systems Analysis, 在オーストリア) とのテクニカルミーティングが、9月8,9日の両日行われました。



“Hybrid Management of Technology in the 21st Century: New Driving Forces of Economic Growth” とのテーマの下、

日本、米国、オーストリア、ロシア、オランダ、インド、中国といった多彩な国から集まった気鋭の研究者との議論は、これまでに培ったSIMOTの知見のより具体的

イメージの深化をもたらすとともに、異なるインスティテューション間の比較検証に貢献いたしました。同時に、SIMOT スーパードクターをはじめとする若手研究者への国際交流の貴重な機会のひとつとして、世界的リーダー輩出教育の一助となりました。



## コラム

富士ゼロックス株式会社 KDI (Knowledge Dynamics Initiative)  
シニアマネジャー  
東京工業大学 SIMOT 特任准教授 野村 恭彦

### 社会イノベーションへの国家的取組み



2006年のノーベル平和賞を受賞したムハマド・ユヌス氏は、貧困に喘ぐ国民に無担保で融資して「仕事を創る」力をつける、マイクロファイナンスの枠組みを作った。ユヌス氏は今年の来日時、大規模公共事業を支援するよりも、ソーシャルビジネスに投資あるいは支援する枠組みを持つことが日本の果たすべき役割と訴えた。社会起業家にとっての最大の課題は、アイデアがあっても資金が集まらないことであろう。

その一方で、営利企業にとってもCSR(企業の社会的責任)は避けて通れない、株式市場で生き残るための最低限の取組みになってきている。環境対策、CSR調達(海外の調達先の社会的責任も保証する)、ダイバーシティなど、あらゆる企業経営者の関心事となっている。その中でも先進的な企業は、「地球環境の持続可能性を守る」ことをイノベーションの機会ととらえ、積極的な研究開発を行っている。日欧の環境技術は、そのもっともわかりやすい例であろう。営利企業のCSRの取組みの最大の課題は、市場原理/コスト競争の中で、社会イノベーションを起こすところまでやり抜くには、たいへんな投資と我慢が必要なことである。

日本が国家戦略として、社会イノベーションで世界に貢献することを標榜するのであれば、これまでの国際開発に投じてきた資金の一部を社会イノベーションのファンドとし、企業の社会貢献技術の開発や、NPO/NGOの活動の資本にあてる枠組みが求められる。さらに社会レベルでのオープンなナレッジプラットフォームを確立し、企業/NPO/NGOが知識と人材を相互活用することを促進すべきである。社会イノベーションは、「社会をより良くしたい」という国民の知恵を最大活用する、国家レベルのナレッジマネジメントと言えよう。



## ■ 最近の動き ■

### ● 海外出張

- 渡辺 10月12日～17日 オーストリア (IIASA)  
 田中 9月20日～30日 デンマーク・スウェーデン (欧州企業における知的財産戦略の調査研究)  
 山崎 10月4日～16日 アメリカ (Bowling Green State University シンポジウム参加)  
 矢島 10月6日～11日 カナダ (SMC2007 に出席 研究課題に関する情報収集)  
 10月27日～30日 アメリカ (ICDM2007 に出席 研究発表及び情報収集)

## ■ イベント予定 ■

### 東工大 MOT 特別セミナー2007 グローバル時代のイノベーション戦略

- 日時 10月19日(金) 13:30～16:00  
 場所 東京工業大学 大岡山キャンパス 西9号館 デジタル多目的ホール  
 テーマ グローバル時代のイノベーション戦略  
 講師 桑島正治氏 (日興コーディアルグループ社長)  
 倉重英樹氏 (インダストリアル・パートナーズ・アジア社長、東工大 MOT 客員教授)  
 関 誠夫氏 (千代田化工建設会長、東工大 MOT 客員教授)  
 主催 東工大大学院 イノベーションマネジメント研究科 (後援: SIMOT)  
 参加申込先 イノベーションマネジメント研究科事務室  
 メールアドレス: mot-secre@mot.titech.ac.jp 電話: 03-3454-8910 または -8912

### 研究・技術計画学会 国際問題分科会 10月例会

- 日時 10月22日(月) 18:00～20:00  
 場所 東京工業大学 百年記念館 第1会議室  
 テーマ 「科学技術・研究開発の競争力: 国際比較 - インスティテューショナル技術経営学への示唆」  
 講師 科学技術振興機構 研究開発戦略センター シニアフェロー 丹羽 邦彦氏

### 東京工業大学 オープンキャンパス

- 日時 10月27日(土) 28日(日)  
 場所 東京工業大学 大岡山キャンパス 西9号館 201号室  
 テーマ 君はビルゲイツになれるか 2007

### ● ● 発行 ● ●



東京工業大学 21世紀 COE プログラム  
 「インスティテューショナル技術経営学」SIMOT 事務室

〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1 W9-51  
 東京工業大学大学院社会理工学研究科経営工学専攻内  
 西9号館 208B号室  
 TEL: 03-5734-2936 FAX: 03-5734-2250  
 Email: [yoshino.m.ad@m.titech.ac.jp](mailto:yoshino.m.ad@m.titech.ac.jp)  
 URL: <http://www.me.titech.ac.jp/coe/>  
 編集者: 菊池 隆